

- 問1 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。 | 2. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。 | 3. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。 | 4. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。 |
|---|---|--|--|
- 問2 戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|---|
| 1. 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため | 2. 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため | 3. 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため | 4. 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため |
|--|---|---------------------------------------|---|
- 問3 16世紀のヨーロッパで起こった宗教改革の背景やその内容を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---------------------------------------|
| 1. モンゴル帝国が勢力を拡大し、中国を支配して国号を元と定めた。 | 2. カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。 | 3. 北アメリカの植民地がイギリスからの独立を宣言し、近代的な民主主義国家を樹立した。 | 4. 蒸気機関の発明によって生産効率が増え、資本主義経済が急速に発展した。 |
|-----------------------------------|---|---|---------------------------------------|
- 問4 戦国時代の社会や法律について説明した文章として、「朝倉氏が城の建築を制限する規定を設けたことや、武田氏が喧嘩両成敗の原則を定めたことなど、大名が独自に定めた規定が存在した」という記述があります。この記述の説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|---|
| 1. これは江戸幕府が成立した直後に各大名を統制するために出された武家諸法度に関する記述である。 | 2. これは室町幕府が守護大名の権力を強めるために制定した建武式目に関する記述である。 | 3. これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。 | 4. これは鎌倉幕府が御家人同士の土地の紛争を裁くために制定した御成敗式目に関する記述である。 |
|--|---|---------------------------------------|---|
- 問5 戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。 | 2. 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。 | 3. 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。 | 4. 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。 |
|--|--|--|--|
- 問6 戦国大名が領国内の武士や民衆を統制するために定めた「分国法（分国章程）」に関連する記述として最も適切なものはどれですか。なお、法の中には家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」などの規定が含まれているものとします。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 農民が団結して一揆を起こすことを推奨し、幕府の権威を完全に否定するために制定された。 | 2. 全国の戦国大名が共通のルールを持つことで、大名間の和平を促進するために制定された。 | 3. 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。 | 4. 朝廷から与えられた公家法をそのまま適用し、京都の文化を地方に広めるために制定された。 |
|---|--|--|---|
- 問7 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|--------|----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 御成敗式目 | 3. 分国法 | 4. 公家諸法度 |
|----------|----------|--------|----------|
- 問8 戦国大名が「分国法」を制定した目的や、その社会的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。 | 2. 裁判の迅速化を図るため、過去の判例を整理して評定衆の裁決の基準を明確にするため。 | 3. 徳川将軍家への忠誠を誓わせ、大名による勝手な婚姻や城の補修を制限して謀反を防ぐため。 | 4. 幕府の法に基づく全国統一的な裁判基準を確立し、朝廷の権威を回復させるため。 |
|---|---|---|--|
- 問9 日本の戦国時代に相当する16世紀、ヨーロッパではキリスト教のあり方をめぐって大きな動きがありました。カトリック教会の腐敗を批判し、聖書を信仰のよりどころとする「宗教改革」を始めた人物は誰ですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| 1. ナポレオン | 2. ルター | 3. クビライ・ハン | 4. ワシントン |
|----------|--------|------------|----------|
- 問10 1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して日本に伝えたキリスト教について、その宗派と布教を担った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|----------------|--------------|------------------|
| 1. プロテスタントー清教徒（ピューリタン） | 2. カトリックーイエズス会 | 3. カトリックー十字軍 | 4. プロテスタントーイエズス会 |
|------------------------|----------------|--------------|------------------|
- 問11 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 執権政治 | 2. 惣一揆 | 3. 徳政令 | 4. 下剋上 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問12 戦国大名が制定した「分国法」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--------------------------------------|--|---|
| 1. 江戸幕府が全国の大名を統制するために、城の修理を制限することなどを目的とした。 | 2. 明治政府が近代的な国家を樹立するために、国民の権利と義務を定めた。 | 3. 鎌倉幕府が御家人同士の土地争いを公平に裁判するために、源頼朝以来の先例をまとめた。 | 4. 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。 |
|--|--------------------------------------|--|---|
- 問13 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。 | 2. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。 | 3. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。 | 4. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。 |
|--|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問2	答え 2 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとした。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問3	答え 2 カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。	宗教改革は、ルターが「九十五か条の論題」を発表し、カトリック教会の教えではなく聖書の内容こそが正しいとする立場をとったことで始まりました。他の選択肢のうち、産業革命は18世紀後半、アメリカ独立戦争は18世紀後半、元の成立は13世紀の出来事であり、16世紀の出来事ではありません。
問4	答え 3 これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。	朝倉氏の城の建築制限や武田氏の喧嘩両成敗などは、戦国大名が家臣を取りしめり領国を支配するために定めた分国法の具体例となります。江戸時代の武家諸法度とは時期や目的が異なります。
問5	答え 2 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。
問6	答え 3 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。	戦国大名は、実力至上主義による下剋上が自分の身に及ぶことを防ぐ必要がありました。そのため、家臣間の私闘を禁じ、大名の裁決に従わせることで領国支配を安定させようと分国法を制定しました。一揆はむしろ大名が警戒し、鎮圧すべき対象でした。
問7	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問8	答え 1 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。	戦国時代、家臣同士の武力衝突は領国の弱体化につながるため、戦国大名は「喧嘩両成敗」などの規定を盛り込んだ分国法を定め、私闘を禁じました。自らの領地を「一国」として独立して統治しようとする大名の姿勢が、この法の制定に表れています。選択肢にある徳川氏による大名統制は江戸時代の武家諸法度、判例の整理は江戸中期の公事方御定書の説明です。
問9	答え 2 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問10	答え 2 カトリックーイエズス会	日本に最初に伝わったキリスト教は、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の一派である「イエズス会」によるものでした。当時、ヨーロッパでは宗教改革によって新教（プロテスタント）が勢力を伸ばしており、これに危機感を抱いた旧教（カトリック）側のイエズス会が、アジアなどへの布教を通じて信者を増やそうとしていました。
問11	答え 4 下剋上	応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。
問12	答え 4 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。	分国法には「喧嘩両成敗」の原則が多く取り入れられました。これは、家臣が勝手に武力で紛争を解決することを禁じ、大名が裁判権を握ることで領国内の平和を維持し、団結を強める狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、大日本帝国憲法などの説明です。
問13	答え 1 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。